

平成20年度「立ち上がる農山漁村」選定事例概要書

◎取組分野：【交流】

- | | |
|--------------------|--------------------------------|
| 1. 都道府県、市町村 | 宮崎県 <small>ごかせちよう</small> 五ヶ瀬町 |
| 2. 団体名 | 特定非営利活動法人 五ヶ瀬自然学校 |
| 3. 取組みの名称 | 過疎化を止める！コミュニティと環境教育 |
| 4. 取組概要等 | |

◇概要

宮崎県の北部、五ヶ瀬町は人口約4,500人の五ヶ瀬川源流の町にあって、農林業の衰退、仕事不足、ライフスタイルの変化などが原因で、過疎化、高齢化、少子化が進んでいる。全国の中山間地域が同じような状況にあるが、何かを始めなければ変わらない！そこで、地域の有志で結成された公益法人である五ヶ瀬自然学校が核となり、五ヶ瀬ならではの村おこしとして、様々な過疎を止める取り組みが始まった。

①クラオカンログハウスの開発・販売

五ヶ瀬川上部の杉材を第三セクターの製材所で乾燥・一次加工し、地元ログビルダーの指導により、林業家、農家、自然学校スタッフなどが2次加工を行う。それを自然学校会員が営業マンとなって販売している。（協力：ログ工房エルカンポ、(株)もくみ、(株)那須林業、五ヶ瀬町役場、(株)ホルツマーケット、宮崎県森林連合会）

②都市と農村の交流事業

ログビルダーが教える本格的なログスクールを開催し、清流五ヶ瀬川カヌーでゴミ拾い、釜炒り茶の手作り体験、五ヶ瀬ハイランドスキースクールなどを実施している。（協力：ログ工房エルカンポ、五ヶ瀬緑製茶、(株)五ヶ瀬ハイランド）

③五ヶ瀬「山の自然学校」やまぶし探検隊（子どもが対象）

五ヶ瀬周辺の山と川を活用し季節に合わせて行うキャンプであり、春の祇園山登山&蘇陽峡カヌー体験、夏の白滝川リバートレッキング&蘇陽峡カヌー体験、秋の黒峰登山&蘇陽峡カヌー体験、冬の向坂山スノーシュートレッキング&スキーの実施や五ヶ瀬川の源流から河口までを様々な体験をしながら下る五ヶ瀬川子ども探検キャンプを実施している。

（協力：自然屋かわじん、NPO法人天岩戸自然学校、ログ工房エルカンポ、延岡東アドベンチャー、NPO法人五ヶ瀬川流域ネットワーク、体験工房いっそ）

④コミュニティビジネスおよび農村活性化事業

空き家情報整備、鞍岡産米のブランド化、釜炒り茶の新製品開発、杉製品の開発、椎茸製品の開発、地域育成マネージャーの育成、田舎暮らし情報の発信などを実施している。

（協力：鞍岡公民館、五ヶ瀬町役場、日添地区農業組合、(株)九州のムラ市場、五ヶ瀬緑製茶、佐藤椎茸園）

⑤五ヶ瀬風の子自然学校（年間約270日開催）

将来の五ヶ瀬町を支える子どもたちへの社会教育の場として、子ども農園づくり（教育ファーム）、釣り教室、昔遊び教室、縄ない教室などについて、放課後毎日開催している。

（協力：五ヶ瀬町教育委員会、西臼杵支庁農林課、宮崎県社会福祉協議会）

◇活動の規模

項目	H15	H16	H17	H18	H19
生産量				3	4
解説	単位：棟 ログハウスの製造・販売				
来客数			6,000	12,000	15,000
解説	単位：人 放課後こども教室、五ヶ瀬の里キャンプ村、イベントの利用者				

項目	H15	H16	H17	H18	H19
雇用者数			12	30	35
解説	単位：人 事業毎に臨時で雇用				
イベント回数			60	70	80
解説	単位：回				
イベント参加者			1,000	1,400	1,600
解説	単位：人				
売り上げ			788,635	4,848,013	17,126,724
解説	単位：円 年間事業収入				
収入		10,000	4,276,689	14,158,692	28,039,915
解説	単位：円 年間の総収入				
支出		66,169	4,386,974	16,436,397	30,502,768
解説	単位：円 年間の総支出				

◇活用している地域資源

五ヶ瀬川、五ヶ瀬町周辺の山（祇園山、黒峰、白岩山、向坂山）、杉、お茶、お米、椎茸、休耕畑、田園、空き家、地域の名人・達人

◇地域活性化のポイント

・五ヶ瀬川流域（五ヶ瀬町、高千穂町、日之影町、延岡市）での連携、隣の熊本県山都町との連携、旧高千穂郷（高千穂町、五ヶ瀬町、椎葉村、諸塚村）での連携や阿蘇地域との連携を進めている。

・昨年より五ヶ瀬町の施設である五ヶ瀬の里キャンプ村の管理代行をしており、体験活動などと合わせて五ヶ瀬自然学校の基地として活用している。

◇事業の今後の展開方向

・現在取り組んでいる事業を進化させながら10年20年と続けて行き、田舎でも潤いを感じながら暮らして行けるようにし、現在放課後子ども教室に来ている子どもたちに引き継いで行きたい。

・五ヶ瀬自然学校が描いているビジョンを広く地域住民に伝えながら意識改革を行い、地域住民が自ら発想し、行動し、継続できるような、実のある活動を中心に行っていきたい。平成20年度は五ヶ瀬自然学校が事務局となり鞍岡地区公民館と五ヶ瀬町役場が連携し、「鞍岡地域づくり協議会」を結成した。

・小水力、小風力、太陽光、薪、植物などのバイオマス利用によるエネルギー開発、自然農法、体験農園、地産地消、民泊、エコツアー、山村留学、生活体験など、新しい田舎暮らしの手法（ネオ・田舎暮らし）を実行しながら、五ヶ瀬町出身の子どもたちの定住と、若い世代の移住者を増やして行く。

